

※「かだる」という言葉は、岩手県の方言で「参加する」、「集う」、「加わる」などを意味します。

「震災からの復興に尽力し、日本女子大学家政学部賞」

やはた ゆきこ
八幡 幸子さん（大槌町）68歳

輝
く
シ
ニア

大槌町桜木町で食料品店を経営する八幡幸子さん。東日本大震災からの復興に尽力したとして、第10回日本女子大学家政学部賞※を受賞しました。自宅兼店舗は地震による津波で被災しましたが、率先して被災住民への支援活動に取り組んだほか、自宅を無料宿泊所として改修し、被災地支援ボランティアの人たちの受け入れを続けています。



復興支援のボランティアらに無料の宿泊所を提供している八幡幸子さん

大地震による津波が押し寄せたとき、八幡さんは自宅兼店舗「ファミリーショップやはた」の2階にいました。店舗は1階が浸水し、障害を持つ夫のほか逃げ遅れた住民を2階に助け上げたものの、ずぶぬれになった住民の1人はその夜亡くなりました。「助けられなかったことを思うと悔しくて、その悔しさを復興にぶつけようと思った」と、支援のために立ち上がった思いを語っています。

その後、避難所で生活しながら住民の支援活動を開始。店の商品や炊き出しに使える調理器具など、持てるものをすべて提供するほか、ボランティアの人脈を使い、支援物資を集め、周辺住民に配りました。また、町内では、全国からやってくるボランティアの宿泊所が不足していたことから、別の古い店舗の2階を自費で改修し、無料の宿泊所を開きました。大学生など、若いボランティアには無料で三食を提供。

気さくで笑顔が絶えず、世話好きな八幡さんの人柄に触れた人はリピーターとなり、いつしか「お母さん」と呼ばれ、慕われるようになりました。ボランティアはシンガポールなど海外からも訪れ、今までに2,000人以上を受け入れ、現在もボランティアや復興工事の建設業者などが利用しています。

出身は遠野市宮守町。昭和49年に結婚で大槌へ。店を営んできたことで地域に密着し、住民との交流も多かったため、地域の惨状を目の当たりにしたときには、「自分は地域のために何ができるのか、ということに常に考えながら支援を続けてきた」と話します。

このような献身的な支援活動が多くを住民を支え、現在も人々が集まる住居兼店舗がコミュニティの結節点になっているとして、第10回日本女子大学家政学部賞を受賞しました。

店舗の事務所には、訪れた人から送られた色紙や手紙、写真などが所狭しと飾られています。その一つ一つを温かい眼差しで見つめながら、「大槌の復興のためにたくさんの方々が来てくれた。これからは、その恩返しをしていきたい」と話す八幡さん。現在は、宿泊所を利用する人への対応のほか、忙しい中でも時間をつくり、兵庫県や青森県など他県に出向き、イベントの炊き出しなどの支援活動も始めています。

※自然科学、人文科学、社会科学の分野で広く福祉に貢献し生活を豊かにする個人・団体の活動を奨励することを目的に2008年に創設された。

シニアの社会参加を支援！アクティブ・シニア交流会を開催

平成 29 年 12 月 5 日（火）、いわて県民情報交流センター（アイーナ）で、高齢者の社会参加活動へのきっかけづくりと、地域活動などを行っている高齢者同士の交流を目的として、アクティブ・シニア交流会を開催しました。

当日は、すでに地域活動を始めている高齢者やこれから活動を始めようとする高齢者など、県内各地から 25 名が参加。参加者は、事例発表や意見交換等を通じ、高齢者が行う地域活動について理解を深めました。

事例発表では、地域活性化や福祉の向上等に取り組んでいる 3 団体が活動状況を発表。ゆつたり介護の会（軽米町）は、認知症の人を介護する家族等を対象に、介護の悩みを語り合う場「介護のつどい」について紹介。介護者が孤立しないよう地域で支え合い、認知症に対する理解を広げることで、「認知症にやさしい地域」を目指し活動している様子について話しました。

アマチュア・マジシャンズ・クラブ大船渡（大船渡市）は、仮設住宅や福祉施設、学童クラブなどを訪問してマジックを披露している様子について紹介。団体結成の経緯や高齢者がマジックの社会貢献活動をする際の留意点、活動の楽しさなどを話しました。また、この事例紹介の後、同会の岩城会長がマジックを披露。ロープや紙幣、ハンカチ



地域の課題について意見を交わす参加者

など小道具を用いたマジックが次々と繰り広げられました。

みらい工房衣川（奥州市）は、少子高齢化や人口減少の進む現状の中で、「福祉を核とした地域づくり」に取り組もうと団体を結成した経緯のほか、大学教授を招いて塾を開講し、地域の担い手となる人材の育成に取り組んでいる様子について話しました。

事例紹介の後、参加者は 4 つのグループに分かれて交流会を行いました。交流会では、「地域の課題」と「その課題に対する対応策」という 2 つのテーマで意見交換を行いました。「課題」として多くあげられたのは、「隣近所の付き合いがない」「若者、男性の参加が少ない」「役員のみ手が足りない」「高齢者の一人暮らしが増えている」などで、その「対応策」としては「人的ネットワークづくり」「地域課題の共有化」「世代間の連携」「人材の育成」「サロンの活用」などがあげられ、終始活発に意見が交わされました。

参加者からは、「活動事例の発表が大変勉強になった」「一緒に話し合いの場を持ち、課題を共有できたことがうれしかった」などの感想とともに、「今回のような交流会をもっと増やしてほしい」との要望も寄せられました。



マジックを披露している様子

ご近所支え合い活動助成金のご案内

岩手県高齢者社会貢献活動サポートセンターでは、ご近所支え合い活動助成金の申請の受付、相談対応を行っています（平成 30 年度の 1 次募集は平成 30 年 1 月 26 日締切。2 次募集は同年 6 月締切予定）。

ご近所支え合い活動助成金とは、県民が共に支え合う地域貢献活動を支援するための助成制度。概ね市町村単位もしくは市町村の一部で行う、①高齢者が主体となって行う活動、または、②高齢者等をサービスの対象とした活動、を対象としています。助成額は、初年度が上限 30 万円、2 年目、3 年目がそれぞれ 15 万円まで。下限は 5 万円（最大 3 年まで事業の継続が可能。但し、毎年度申請が必要）。

申請についてのお問合せは、当サポートセンターまでご連絡ください。

※本助成金の詳細は、ホームページでもご覧になれます。（「岩手県高齢者サポートセンター」で検索）



菓子地域の環境を整備し守る会（滝沢市） 黒澤 明夫会長 会員 20 名

老人クラブや自治会で活動をしていた高齢者が集まり、地域の玄関口・菓子駅周辺の環境整備を目的に平成 28 年に設立。植栽する主な花は近年自生地が失われている市の花・ヤマユリ。駅前ロータリーの土地改良から始め、定期的に草刈りを行うなどして環境整備に取り組んでいます。また、ヤマユリの植生地を地域に広げるため、地域の中学校や保育所などにも植栽。ヤマユリは見事に開花し、今後さらなる環境美化を目指しています。



にこにこ会（一関市） 佐藤 千代会長 会員 35 名

高齢者世帯、独居高齢者が増加する中でも、高齢者が生きがいを感じ、共に孤立防止や介護予防ができるようにと地域の女性が集まり平成 28 年に設立。筋力・体力維持や認知症予防等を目的として百歳体操とリズム体操を行っています。このほか、食生活改善のための料理教室や健康講座、お茶っこ飲み会なども年間を通じて開催。参加者からは、歩行が楽になったという声があり、健康づくりや仲間づくりなどに繋がっています。



奥州衣川青凧会（奥州市） 伊藤 敏男会長 会員 24 名

平泉文化の世界遺産登録に市内の 2 遺跡が候補地となったことを機に、地域の歴史を講談で伝承していくため平成 21 年に設立。台本は史実を基に会が独自に創作し、会員それぞれが芸名を持ち、プロの講師から指導を受け芸に磨きを掛けています。会主催の歴史講談祭りや市内イベントからの要請などで公演を行い、好評を博しています。また、後継者の育成にも取り組もうと小学生を対象に講談教室を開講し、子どもの講談組織を立ち上げました。



小釜第 4 仮設エコハウス友の会（大槌町） 中村 百合子会長 会員 15 名

盛岡市などから被災地支援のために寄贈された環境配慮型ミニ集会施設「エコハウスおおつち」。その近接の仮設住宅及び周辺に住む女性たちが集会施設を活用してコミュニティづくりをしようと平成 24 年に設立。高齢者の外出する機会を増やし、運動不足や食生活の偏りをなくそうと、講師や専門家などを集会施設に招き、軽体操や料理実習の健康づくり教室、手芸教室を定期的に開催しています。



音訳こだま（盛岡市） 浅沼 武子会長 会員 10 名

絵本や昔話の読み聞かせを通じた交流を図ることで、孤立感や疎外感等の解消に貢献しようと平成 23 年に設立。設立当初は障がい者への音声訳から始まりましたが、現在は、高齢者や子どもへの絵本や昔話の読み聞かせが中心です。毎月市内 2 か所の高齢者施設を訪問し、昔話等の読み聞かせを行うほか、合唱や軽体操で共に楽しい時間を過ごしています。また、地域のお祭りで子供たちに昔話や絵本の読み聞かせを行っています。



（ここで紹介したすべての団体では、事業の一部に、公益財団法人いきいき岩手支援財団の「ご近所支え合い活動助成金」が活用されています。）

陸前高田市広田町の泊お楽しみクラブ（名誉会長藤原紀久子、副会長吉田和子、会員 36 名）は、高齢者の社会参加を促し、閉じこもり予防や介護予防などにつなげようと、施設慰問、世代間交流事業、健康講座などを行っています。会員の年齢は、下は 72 歳から上は 90 歳まで。地域の人々にも呼びかけ、元気な高齢者の輪を広げようと活発に活動しています。

結成のきっかけは、平成 27 年度に開催された市主催の介護予防教室。1 年間の介護予防講座をひと通り終えた後、総まとめとして行われた「シニア幸せ教室ふりかえり交流会」で、メンバー 8 人が 200 人の前でオリジナルの踊りを披露。観客から喝さいを受けたメンバーは、仲間が集まり活動することの楽しさを覚え、グループの結成につながりました。現在はこの経験を生かし、「同世代の自分たちが頑張っている姿を見せ、刺激を与え元気になってもらいたい」と市内の高齢者施設等を訪問し、歌や踊りを披



高齢者施設で踊りを披露する会員

露しています。また、災害公営住宅に住む高齢者や地域の高齢者の健康維持・増進を図ろうと、毎月 2 回、公民館で健康講座なども開催しています。専門講師を招いて行う軽体操や食事指導のほか、手芸・工作などの講座には毎回 30 名程度が参加し、地域の高齢者の交流の場にもなっています。そのほか、子どもたちに地域の伝統・文化を傳承しようと、みずき団子づくりなどの世代間交流も行っています。

事務局長の菅野タエ子さんは、「東日本大震災から 6 年以上が経過し、災害公営住宅や自宅再建など、生活拠点の目途が立つ人が増えてきた。そのような中で、コミュニティの再生が課題となってきた。そのような中で、住民同士が支え合う関係を作っていけるよう、住民の交流の機会を多く持ち、安心して暮らせる地域となるよう活動を続けていきたい」と話しています。

（この事業の一部に、公益財団法人いきいき岩手支援財団の「ご近所支え合い活動助成金」が活用されています。）



健康教室の様子（陸前高田市広田町民館）

お知らせ

ホームページについて

当サポートセンターのホームページでは、「県内の活動団体紹介」「県内外の助成金情報」「全国の高齢者の社会参加に関する情報」など、高齢者の社会参加に役立つ情報を随時更新していますので、ぜひご活用ください。
「岩手県高齢者サポートセンター」でクリック！

絵画や写真、書道など作品を展示してみませんか？

12 月 6 日～19 日まで、アイーナ 6 階で、趣味で絵を描いている高齢者の方の水彩画を展示しました。「松川溪谷」「猊鼻溪」など 13 点を展示。
当サポートセンターでは、今後もこのような企画を予定しています。創作活動の成果を発表する場として、あなたも作品を展示してみませんか？